

令和4年度 法人事業報告

新型コロナの感染の影響で、各事業所は昨年度に続き行事の中止や活動内容の変更を余儀なくされました。さて、法人の中・長期計画で見直しした懸案の「わかば園」の改築計画は、赤穂市との使用貸借契約の関係で、「市有財産の払い下げ」で再検討をすすめることになりました。

ホームページでは、各事業所の活動状況を毎月更新しています。特に令和4年度は「耳よりハンター」コーナーを設け、障害児・者に関する情報（障害児教育、就労・支援の方法等）に関する情報を公開しています。法人としては「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を年3回の開催し、虐待防止の研修に取り組んできました。また、サービス向上委員会を開催し、サービス向上のための保護者様からの意見を聞き、事業の運営改善に活かしています。

法人の資金収支決算は、事業活動による収支は、1,315万円の黒字でした。その他の活動による収支等を差し引いた当期資金収支差額は837万円の黒字収支でした。詳しくは、掲載の決算報告書をご参照ください。

令和4年度 決算報告

勘定科目	決算
事業収入	
就労支援事業収入	2,887,818
障害福祉サービス等事業収入	129,477,991
経常経費寄附金収入	65,680
受取利息配当金収入	4,232
その他の収入	702,478
事業活動収入計(1)	138,137,995
事業活動支出	
人件費支出	94,508,062
事業費支出	15,298,143
事務費支出	7,812,910
就労支援事業費支出	2,806,655
支払利息支出	67,812
事業活動支出計(2)	119,989,582
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	18,148,413
固定資産売却収入	
施設整備等補助金収入	1,100,000
固定資産売却収入	300,000
施設整備等収入計(4)	1,400,000
固定資産取得支出	
設備資金借入金元金償還支出	1,320,000
固定資産取得支出	1,778,000
施設整備等支出計(5)	3,098,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△1,698,000
その他の活動による収入	
その他の活動収入	572,993
その他の活動収入計(7)	572,993
役員等長期借入金元金償還支出	
積立資産支出	500,000
積立資産支出	3,149,751
その他の活動支出計(8)	3,649,751
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△3,076,758
予備費支出(10)	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	8,373,655
前期末支払資金残高(12)	35,413,818
当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)	43,787,473

勘定科目	当年度決算(A)
増益	
就労支援事業収益	2,887,818
障害福祉サービス等事業収益	129,477,991
経常経費寄附金収益	65,680
サービス活動収益計(1)	132,431,287
費用	
人件費	94,508,062
事業費	15,298,143
事務費	7,812,910
就労支援事業費用	2,806,655
減価償却費	3,283,126
国庫補助金等特別積立金取崩額	△1,475,423
サービス活動費用計(2)	121,729,473
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	10,701,814
外増益	
受取利息配当金収益	4,232
その他のサービス活動外収益	702,478
サービス活動外収益計(4)	706,708
外費用	
支払利息	67,812
サービス活動外費用計(5)	67,812
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	638,896
経常増減差額(7)=(3)+(6)	11,340,710
増特別益	
施設整備等補助金収益	1,100,000
固定資産受贈額	2,525,953
固定資産売却益	299,999
その他の特別収益	831,949
特別収益計(8)	4,557,901
費用	
基本金組入額	2,525,953
国庫補助金等特別積立金積立額	1,100,000
その他の特別損失	100,000
特別費用計(9)	3,725,953
特別増減差額(10)=(8)-(9)	831,948
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	12,172,658
繰越	
前期繰越活動増減差額(12)	42,818,499
当期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	54,991,157
繰越	
基本金取崩額(14)	41,044
の動	
その他の積立金積立額(15)	3,149,751
部増	
次期繰越活動増減差額(16)=(13)+(14)-(15)	51,882,450

法人単位貸借対照表
令和5年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	49,950,821	39,478,405	9,872,416	流動負債	8,523,348	5,984,587	3,138,761
固定資産	75,928,337	71,798,804	4,129,533	固定負債	12,824,000	16,284,000	△3,460,000
(基本財産)	64,928,292	64,459,216	469,076	負債の部合計	21,347,348	21,668,587	△321,239
(その他の固定資産)	11,000,045	7,339,588	3,660,457				
資産の部合計	125,279,158	111,277,209	14,001,949	純資産の部			
				基本金	22,355,953	19,871,044	2,484,909
				国庫補助金等特別積立金	24,571,559	24,946,982	△375,423
				その他の積立金	5,121,848	1,972,097	3,149,751
				次期繰越活動増減差額	51,882,450	42,818,499	9,063,951
				純資産の部合計	103,931,810	89,608,622	14,323,188
				負債及び純資産の部合計	125,279,158	111,277,209	14,001,949

編集後記 各事業所では、以前のような楽しい活動が復活してきましたね。利用者が楽しく過ごされることを祈ります。ご家族の皆様にとりましても楽しい夏になりますように。

文責：津浦

社会福祉法人 緑樹福社会

緑樹福社会だより

<https://www.ryokuju-fukushi.com/>

第9号 令和5年7月

赤穂市大津 1041

TEL 0791-45-2240

FAX 0791-56-9000

理事長挨拶

理事長 三村佳壽子

今年ほど梅雨明けが待ち望まれる年はないのではないのでしょうか。各地で洪水、土砂崩れ河川の氾濫と痛ましいニュースと気象予報を目にしております。世界的な気候変動がみられ気象パターンが一変し数十年前の意識のままでは人類の生活に深刻な影響に、対応が遅れるのではと懸念致します。

当法人では、先日「自然災害時」を想定したマニュアルの再確認及び「B. C. P (事業継続計画)」の取り組み作成に向け、管理者会議を開き日中活動事業、夜間活動事業それぞれに別れ、スタート致しました。

私たちの社会福祉法人緑樹福社会は、地域の皆さま、関西福祉大学、手をつなぐ育成会、のご支援、ご協力のもと早いもので設立から15年が過ぎました。当法人の理念は「国連障害者権利宣言」のベースとなっているノーマライゼーションです。「ノーマライゼーション」はノーマル(正常、当たり前)ゼーション(確実に理解する)。70年ほど前の障害者の置かれている状況は劣悪な環境に収容されているケースが多かったと聞いております。障害者であることがアブノーマルとされていた歴史の中、デンマークの一人が障害者も当たり前暮らしを送る権利があると提唱されました。そしてその理念をスウェーデンから世界に広めていきました。その人々の気づき、国際社会へ広めた功績を、法人理事長として又障害者の家族として見習い手本として生きていかねばなりません。社会、地域の中で当たり前の暮らしを実現するためには、障壁(バリア)を無くしていく、それが一般になじみのある言葉つまりバリアフリーです。日々の暮らしの中で当たり前の暮らし(仕事、買い物、趣味、食事、旅など)を謳歌できるよう福祉サービスを提供させていただき、喜んでいただける支援をおこなってまいりたいと職員と共に強く思っております。

そして、理念を具現化するために職員の研修、各委員会の実施等は必須となります。

職員研修としましてはわかば園職員に向け、理事である関西福祉大学中村剛教授、法人職員に向け評議員の姫路自立生活支援センター河原正明代表に各研修会を毎月行っていただいております。ご両人とも繁忙中お引き受けくださり職員一同感謝の念に堪えません。

又、委員会では「虐待防止・身体拘束適正化委員会」に加え、「サービス向上委員会」を開催しております。特に「サービス向上委員会」では、各事業所の近況報告、問題点、今後の課題、前回で出された問題点が改善されたかを問う検証と共に、家族会から選出された各事業所代表の委員を通じてのご利用者様及びご家族からのご意見、要望等をお聴きし、支援の質の向上に努めております。当法人では利用者様、ご家族と共に理念の実現に向かうことが「赤穂市手をつなぐ育成会」の本来の意味(インクルージョン)つまり、障害者、多様な人々、多様な価値観、多様な個性などが一体となった社会の実現に貢献できるものと考えております。

「赤穂市手をつなぐ育成会」を母体とする緑樹福社会の理念は正に当事者理念であると深く理解いたします。

今後とも、理念が揺らぐことなく進んでまいります。皆様方には益々のご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。



わかば園（生活介護・就労継続支援B型）

管理者 仲千恵子

4月から、わかば園の管理者をさせていただくことになりました。利用者様が楽しく安心して過ごせるように努力してまいります。それには職員が意見を交わせる環境を整え、職員が一つのチームとなる様に助言し、一緒に考え、スキルアップを図れるように努めてまいります。

何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症も5類となり、ばんたん親善運動会にも参加し優勝しました。利用者様からは「又、来年も行きたい！」と笑顔がかえってきました。7月には夏祭り、9月にはバス旅行も計画しております。利用者様の安全面に配慮しながら楽しい行事を行ってまいります。

就労の作業としましては、今年度初めて粒子線医療センターの除草作業を実施しました。少しでも工賃につながるように工夫していきます。

生活介護では利用者様が一つの部屋で音楽療法、創作に楽しく参加されています。カラオケでは今まで参加されなかった方がマイクを持ちリズムをとる和やかな姿も見られます。利用者様の笑顔に職員が毎日励まされています。尚一層、利用者様が笑顔と達成感が得られる様、職員一同力を合わせてまいります

ぱいろっと（相談支援）

管理者 前田康裕

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様のお力添えを受けまして、5回目の夏を迎えようとしております。

これまで、たくさんの方のお話を聞かせていただき、計画相談を行う上で、利用者様に合った計画を立て、満足度を上げるためには、利用者様やご家族様の今現在の思いや欲求を理解することが大事であることを改めて気が付きました。そういった感性を身につける上で大きな手助けとなるのが、アメリカの心理学者マズローが唱えた欲求5段階説です。

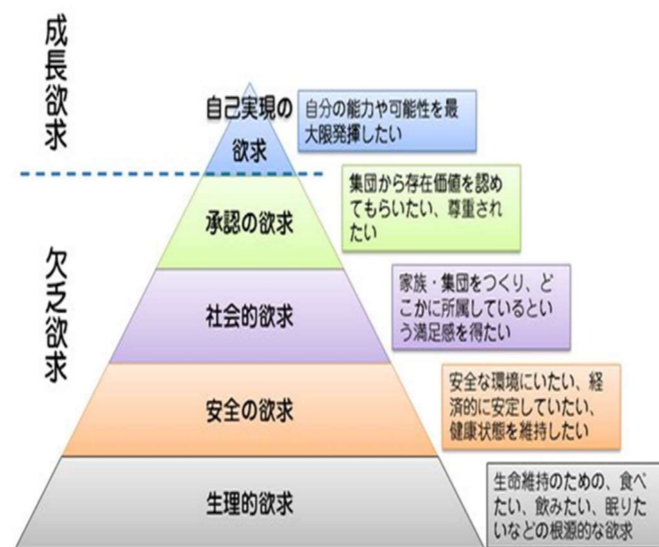
今回は「マズローの欲求5段階説」について、少しお話させていただきます。

生理的な欲求から自己実現の目標まで、人は誰でも様々な欲求を抱きます。これらの欲求には、環境の変化や心の動きによって段階があり、5つの階層のピラミッドとして形作られていて、人は低い段階の欲求が満たされると次の段階の欲求を持つというものです。

最下層から

- ① 生理的欲求：生存のために欠かせない、飲食や睡眠、排泄等の本能的かつ基本的な欲求。
- ②安全欲求：リスクを回避し、心身共に健康で安全な環境で安心して暮らしたいとする欲求。
- ③社会的欲求：集団への所属や仲間を求める所属意識や愛情に関する欲求で、この欲求が満たされないと孤独感や社会的孤立に繋がります。
- ④承認欲求：他者から評価されたい、集団や組織の一員として認められたい、自信を持ちたいといった欲求です。自分を成長させるモチベーションになります。
- ⑤自己実現欲求：①～④の欲求がすべて満たされた頂点になる段階で、自分の可能性をさらに広げ、自身の使命や自己実現の達成を目指します。

利用者様が今どの段階で、どのような困り事があり、どのような欲求があるのかを知るために、丁寧なアセスメントを行い、利用者様やご家族様の意向に耳を傾ける事で、何を求めておられるかを探り、自己実現を目指している利用者様をサポートできればと思います。



てくてく（放課後等デイサービス）

管理者 藤田真紀子

今年度は、新しく6名利用で現在20名の方が契約され、毎日定員数（10名）ご利用いただいております。キャンセル待ちをされている方も増えており、ひとえに保護者様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。今年も自治会の方から七夕の笹を頂きました。短冊に願い事を書き作った七夕飾りと一緒に笹に飾りました。また、行事や創作活動を通じて季節の変化に興味を持てるように取り組んでいます。

今年度より、園外学習を再開しました。利用者様に楽しく参加できるよう新しい活動を取り入れ、ご家族が安心してご利用いただけるよう、職員一同努めてまいります。



てくてくガーデン



創作活動



七夕飾り

ぶくぶくほ一む（短期入所・日中一時）

管理者 吉川愛基

日中一時と短期入所を合わせて5名の定員ですが、ほとんどの日が一杯となっています。新たな利用者様も増え、ぶくぶくほ一むでの過ごし方にも慣れてこられました。一人ひとりの利用者様を理解し、どの様に接したらより快適に過ごしていただけるのかを日々考えながら、一日一日を送っています。ご家族の方からも色々なご意見やアドバイスなどを聞かせていただき、安全で楽しく過ごせる施設になるよう心掛けていきます。新型コロナウイルス感染症対策としては、アルコール殺菌、手洗い、換気に気を付けて日々対応しています。

ファミリア（共同生活援助）

管理者 前田康裕

今年の夏はひときわ暑いようですが、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、令和3年6月に開所いたしました「ファミリア」ですが、皆様の多大なるお力添えにより、丸2年を迎える事が出来ましたことを心よりお礼申し上げます。

途中、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、ご心配ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びいたします。まだまだ行き届かない事も多々あると思いますが、入居いただいている方やご家族様に、安心と満足を感じていただけるように、職員一同日々努めて参ります。

グループホームに求められる事として、障がい者の地域生活を支え、人生をより豊かにするという事がありますが、そのためには、余暇活動の充実という事が大きな要素であると考えています。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、少し外出しやすくなった今、土日、祝日や日中活動後の過ごし方を、社会資源を十分に活用しながら、より豊かな時間にする事が出来ればと思っています。

